

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	大分県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大分市立西の台小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	4	5	1	26	36
児童数	132	139	155	151	141	170	4	892	

研究の概要

1. 研究主題

個の持つつまづきを改善し、学びの楽しさを会得させる指導法の改善
---------------------------------

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

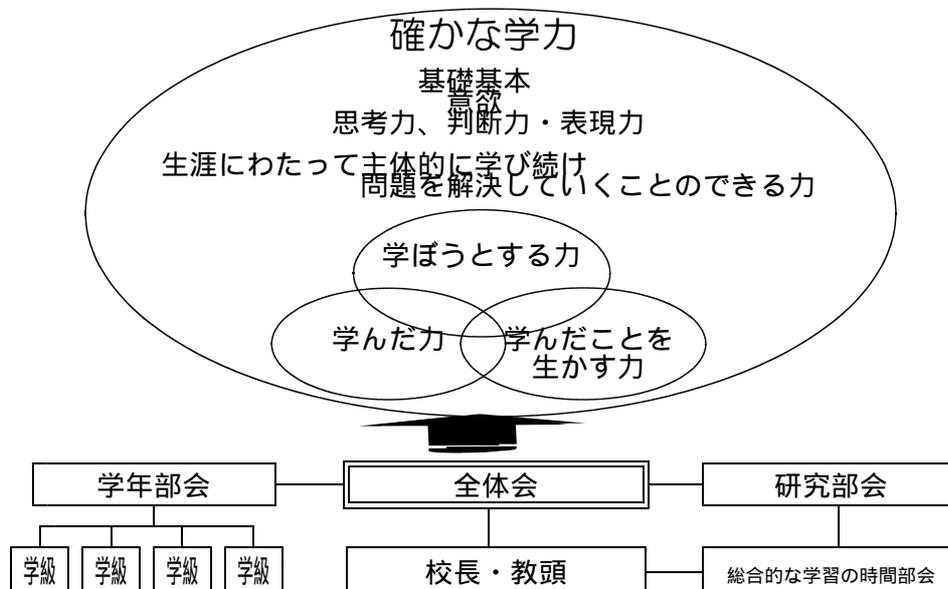
<p>全学年の算数科(関連する教科として総合的な学習の時間)          昨年まで「考えることを楽しむ算数科学習」の実現を目指し、問いと素材、算数的活動、思考場面の位置付け等を内容とする校内研究に取り組んできた。研究の中で、児童は全体的に決められた方式に乗り処理することは出来ているが必ずしも思考が深まっているわけではないことが明らかにされた。そこで、理解度が見え易い等の条件と合わせて算数科を研究教科と定めた。また、必要なこととして「生きる力」が発揮される場としての思いから総合的な学習の研究を伏線として研究することにした。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

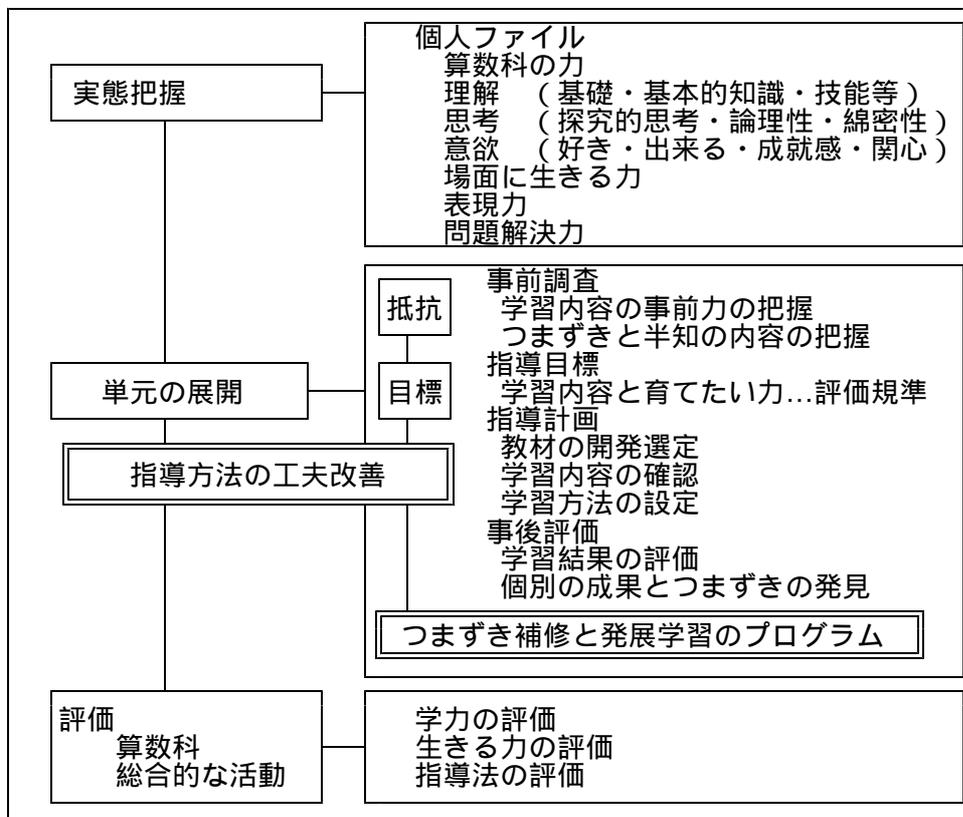
平成15年度	<p>テーマ          個の持つつまづきを改善し、学びの楽しさを会得させる指導法の改善          研究の見通し          学力の向上に向けての努力は、子どもが持つ具体的なつまづきの内容に正対し、これまで教師自身がもっていた漠然とした不達成感をぬぐい自らの指導を真摯に見直し、一人一人が指導法の習熟に努めることから始まることを全職員で確認した。この2年間の研究が進み、つまづきの究明、意欲の高揚、楽しく学ぶ教材の選択、ITや少人数指導、習熟度別等の指導法の改善等と指導に生きる評価のあり方を求められ、楽しい学習を創り出したいと願っている。</p> <p>研究の内容・方法          一学期          様々な(観点別テスト・S-P表等)評価法を使い、学年当初の算数科の習熟度合いを把握するとともに個のつまづきを知る。それぞれの学級で、実態に即した指導法を想定・実践し、評価することから全職員の研究趣旨に対する共通理解を図る。</p> <p>二学期          それぞれの実践をもとに学年での指導法の工夫改善にかかわる研究内容の集約をはかる。学年での指導法の工夫改善の方策を、実践授業を組むことによって、それぞれの有効性を吟味する。</p> <p>三学期          学年の実践を整理し、学年毎に有効性を認められた改善の方策をまとめる。全校として改善の方策の有効性を確認し、次年度に本校の指導法の工夫改善の柱となるものを生む。</p>
平成16年度	<p>各学年の成果を持ち寄り、来年度に向けた取り組みを検討中である。</p> <p>テーマ          研究の見通し          研究の内容・方法          ・低・中・高学年の発達を考えた指導法の工夫・改善を形にする。          ・評価規準を更に見直す。          ・発展的指導の内容を工夫する。</p>

(3) 研究推進体制

校内研究を学力向上フロンティアスクールの研究開発とする。  
 研究主任がフロンティア主任を兼任する。  
 校内研究組織を学力向上フロンティアスクール推進組織とする。  
 個の学級の改善をベースとした全学年の取り組みとする。  
 算数科を中心に研究を進める。  
 研究内容に応じ、研究内容を分担する。



研究の全体構想



平成15年度の研究成果及び今後の課題

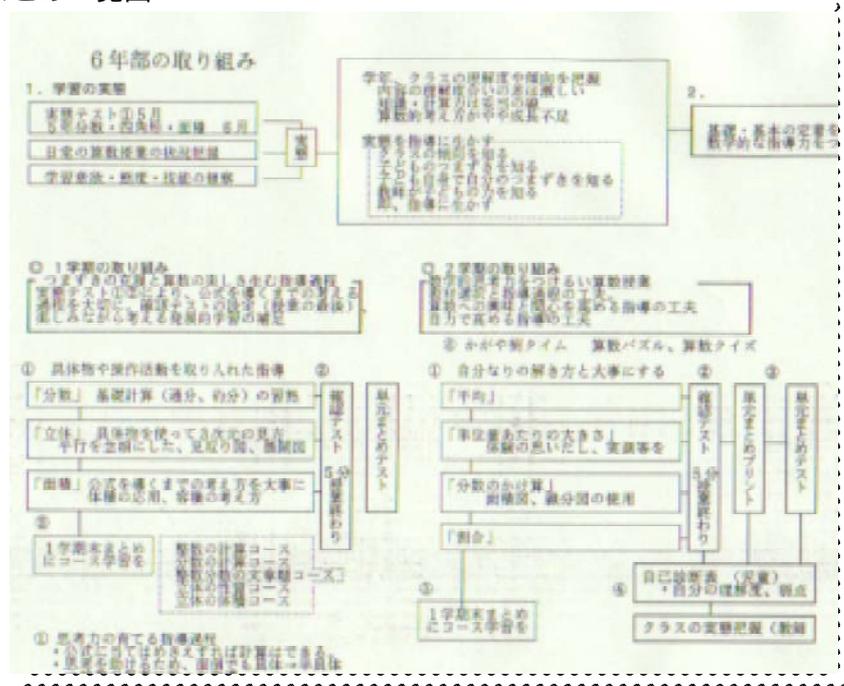
1. 研究成果

(1) 二年次に向けての意識づくり

まず、研究の初めに各学級担任にそれぞれの学級の改善策とその実践報告を求めたことは、研究の始めに TT、少人数、習熟度等の指導形態を想定した実践よりは、時間がかかったが職員の研修意識の向上には大きな成果がみられた。

以下は、年間の研究経過を「6年部のまとめ」の一部を表示する。各学年部とも同様に研究経過をまとめている。

6年部のまとめ一覧図



(2) 各学年で効果をみせた取り組み

学習内容にあわせた指導方法

算数的活動を位置付けた教材づくり

- 学習への動機付け、鮮明な課題把握、自力解決の思案等、学習意欲の涵養を図るため、各自が実践の中で教材開発に努めた。

指導過程・指導形態の工夫

- 学習内容にあわせ指導方法（思考を深める指導プロセス、操作活動等の算数活動）や指導形態（個別、TT、少人数、グループ、コース、習熟度別等）を指導案に想定し、内容の定着に努めた。

「定着と発展」を図るコース学習

- 各学年毎に単元の終末又は期末テストの終末後に、コース学習を設定した。

- 1年 くだものコース
- 3年 ドラえもんコース
- 4年 コースプラン
- 5年 チャレンジタイム
- 6年 チャレンジコース

確認テスト・形成的評価の利用

- 授業毎、終末に確認テストを実施した。つまずきの早期発見と補修の意味で2～5問程度の解く出題や授

5年生の実践例

単元	A 数と式	B 量と測定	C 図形	D 数量関係	つまずきの実態	指導形態
1 四角形			★		形の分解	TT指導
2 整数と小数	★			★	概数 大きさ把握	TT→少人数 →TT
3 小数のかけ算とわり算	★					TT指導
4 三角形と角			★	★		少人数
5 小数のかけ算	★				「3小数のかけ算とわり算」の学習	少人数
6 小数のわり算	★			★	実態	少人数
7 図形の面積			★	★	変形した図形の面積	TT指導→ 課題別
8 分数	★				大きさ把握	TT→少人数

業の感想等を書かせた。  
 自己診断表（個人カルテ）の利用  
 ・ 低学年は教師用のカルテ、中学  
 年は子ども自身によさやつまずき  
 が見えるように。高学年は自己で  
 作成し、自分で改善を図るための  
 支援に役立つような診断表をつく  
 らせた。

つたタイム  
 ・ 毎週、月、金の二日、朝の時間  
 に設定。計算、書き取り、文章題  
 の挑戦、百人一首、読書等の内容  
 を学年毎にきめた。又、事前テス  
 トの結果からつまずき解消を目的  
 とした内容も実施した。

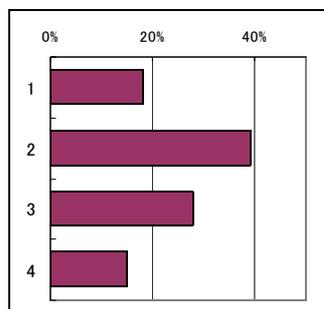
評価規準の作成  
 ・ 個々に応じた指導法を工夫する  
 上で、つまずきを想定し本校の評  
 価規準を設定することは不可欠で  
 ある。全単元での作成し指導との  
 一体化を試みた。

さんすう屋の構想  
 ・ 各学年が工夫して、算数クイズ  
 や難解な課題を準備し、個別に挑  
 戦させ意欲向上を図った。

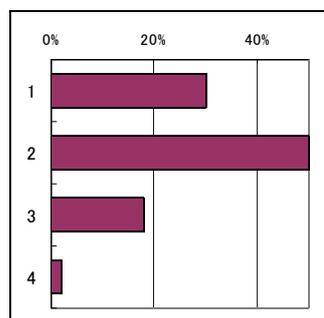
ドラマ通信  
 ・ 保護者への通信で、現在の指導  
 内容、ポイント、実態等をもとに  
 伝えて保護者の協力を仰ぐ。

### 6年生のコース別学習に対する意識

コースに分かれてする  
算数の学習はすき



勉強の内容がわかる



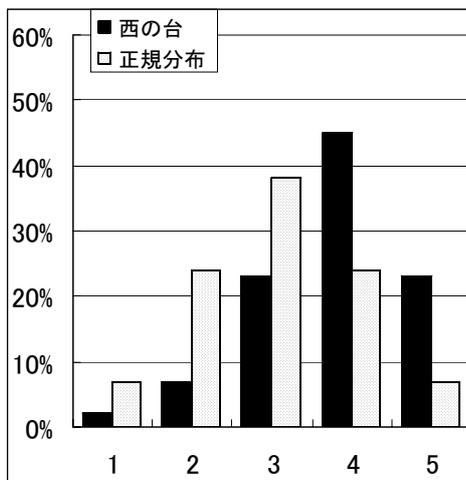
- 1 よくあてはまる
- 2 どちらかといえばあてはまる
- 3 どちらかといえばあてはまらない
- 4 まったくあてはまらない

### (3) 学力向上の状況

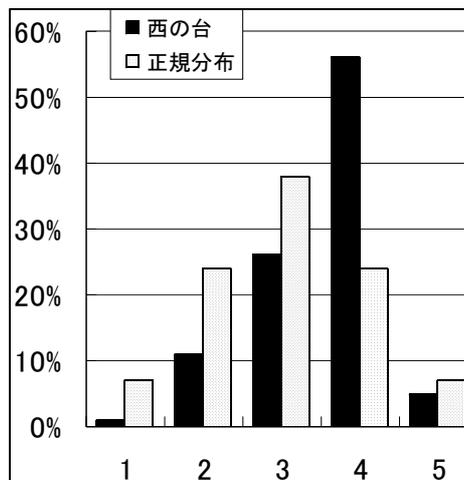
上述のように、それぞれの学年で必要感に基づき方策を講じてきた。しかし、一年目であり、その効果を数的に実証することは難しい。同領域の内容で観点別に得点を単純に比較しても、難易度をはじめ得点を左右する要素が多く信頼性はない。

本年度は、10月に全県一斉の基礎基本の習熟をみるテストが実施された。下図は、算数科、国語科の全国値からみた本校の偏差値の分布である。現5年生が4月、5月に実施すれば、分布に多少の違いがあるものと思うが、得点分布の状況からみるとかなりの履修効果があったものと判断できる。

国語科 正規分布との比較



算数科 正規分布との比較



5段階表示 偏差値区分

1 . 34以下      2 . 35-44      3 . 45-54      4 . 55-64      5 . 65以上

## 2. 今後の課題

各学年の成果を持ちより、来年度に向けた取り組みを討議中である。  
上述の成果 ~ を内容とした、低・中・高学年の指導工夫を形にする。  
現在、見直しを進めている評価規準をより具体的にしよう努力する。  
子どもの実態から観て、発展的内容の指導を工夫し、よさを伸ばす指導努力が必要だと思われる。

### 学力等把握のための学校としての取組

- ・全国標準診断的学力検査 5年生での実施
- ・市販の観点別テストの実施

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会、説明会等の開催実績及び開催予定（日時、場所、対象、会の目的等）  
・研究普及のため3月上旬に本年度の研究を冊子としてまとめる。  
・平成16年 11月 25日（木） 研究報告会・発表会の本校での開催

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】      15年度からの新規校      14年度からの継続校
- 【学校規模】             6学級以下                     7～12学級  
                              13～18学級                    19～24学級  
                              25学級以上
- 【指導体制】             少人数指導                     T・Tによる指導  
                              一部教科担任制                その他
- 【研究教科】             国語                     社会                     算数                     理科  
                              生活                     音楽                     図画工作               家庭  
                              体育                     その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      有                     無